

# キリスト教主義女子大学学生の 生活態度における民主化の度合 に関する実証的研究 (その三)

雀 部 猛 利  
溝 口 靖 夫  
難 波 紋 吉

## 〔調査目的〕

既に神戸女学院大学論集第8巻第3号において述べている如く、学生の生活態度における民主化の度合を捉えることを目的とし、学生が生活の諸断面においてどのような態度を示しているかを調べてみた。生活態度における民主化の度合は、学生が生活している家庭の性格や彼女たちが居住する地域社会の特質や学生生活を営んでいる大学生活の期間などによって左右されると共に、生活分野の各断面に現われる問題の性格によっても異っていることを明らかにせんとしたのである。

過去の歴史のなかでキリスト教主義学校が日本の民主化や日本人の民主主義的な生活態度に貢献してきた業績は決して少ないものではなかったが、今日のキリスト教主義大学において学んでいる学生の生活態度にも果してそのような断面を伺うるといえるだろうか。

キリスト教主義学校で学ぶ学生の声を聞くことによって、彼女たちの生活態度のなかに現われている民主化の度合を実証的に捉えようとしたのがこの研究の目的やねらいであった。勿論学生が答えている質問項目に対する回答が果して彼女たちの「本音」であるのか、あるいは「建て前」であるのかについての吟味はこの調査では検討しないことにする。

### 〔調査日時〕

昭和36年6月より10月にわたる期間においてこの調査を実施した。計画の当初は6月中に実施する手順であったのが、遠離地域に分散している四大学を調査対象に選んだ関係上、若干調査日時が各大学の事情により異った。詳細に記述するならば神戸女学院大学は6月末、広島女学院は7月上旬、東京女子大学と宮城学院が9月下旬から10月初旬にわたって実施されたのである。

### 〔調査方法〕

各大学の社会学担当教授または宗教主事のもとに調査票を発送し、各教授を通して学生に調査票を交付してもらい、学生は家庭において調査票に概当事項を記入した上、担当教授を経て神戸女学院大学社会学研究室へ一括郵送して貰ったわけである。従って大学別の回収率にもかなり差を生じたが、全部で1527名分の調査票が分析に耐えうるものとして処理された。

### 〔調査結果〕

調査の対象として四つのキリスト教主義女子大学を選んだが、調査結果の分析に耐え得た調査票は全体で1527、大学別でみると宮城学院が394、広島女学院が79、東京女子大学が344、神戸女学院が710であった。また学年別にみると第一学年が432、第二学年が557、第三学年311、第四学年が227である。調査対象の性格を調べてみるとF3表に示す如く、1527名のうち新教受洗者は全体の約1割に過ぎないが、求道中のものが8%、無教会派のものが0.6%、旧教のものが1.4%であるから、結局キリスト教を信仰している学生は全体の約二割に相当することになる。宗教に対して関心をもっているが現在信じている宗教がないと答えた学生が圧倒的に多く、全体の61.8%に達している。積極的に無神論者であることを表明している学生は僅かに7.1%に過ぎない。学年別にみるとキリスト教の受洗者は学年が進むにつれて増加し、第一学年では新教受洗者が僅かに5.5%であったのが、第二学年になると9.9%、第三学年では13.8%、第四学年では15.0%と次第に遞増している。また無神論者の数も第一学年では9.5%であったのが、第二学年では6.8%、第三学年では5.8%

第四学年では5.3%と次第に遞減し、キリスト教を信仰する学生は学生生活を長くすることによって増大していることを示している。

F3 信じている宗教があれば○印をつけ下さい

イ) キリスト教

※ 教団または教派名を具体的に( )

※ ローマカトリック教、ギリシャ正教会

※ 無教会派

ロ) キリスト教以外の宗教(その名 )

ハ) 関心はあるが信じている宗教なし

ニ) 宗教は信じない、無神論者

ホ) その他(具体的に )

<input type="checkbox"/>	1受洗	<input type="checkbox"/>	2求道中
<input type="checkbox"/>	3受洗	<input type="checkbox"/>	4求道中
<input type="checkbox"/>	5所属している		
<input type="checkbox"/>	6信者	<input type="checkbox"/>	7求信中
<input type="checkbox"/>	8		
<input type="checkbox"/>	9		
<input type="checkbox"/>	0		

調査対象者	新 教		旧 教		無教会派	キリスト教以外信者	関心があるが信じていない宗教なし	無神論者	その他	無解答	計	
	受洗	求道中	受洗	求道中								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0		
宮城学院	28	29	3		5	2		237	36	5	49	394
広島女学院	3	6		1		4		50	5	7	3	79
東京女子大	20	22	5	5	5		1	239	25	11	11	344
神戸女学院	105	67	2	5	4	4		417	43	31	32	710
一 年 生	24	51	2	6	3	2	1	270	41	32		432
二 年 生	55	40	2	1	5	7		358	38	9	42	557
三 年 生	43	27	3	3	5	1		170	18	11	30	311
四 年 生	34	6	3	1	1			145	12	2	23	227
計	156	124	10	11	14	10	1	943	109	54	95	1,527
%	10.2	8.1	0.7	0.7	0.9	0.7	0.1	61.8	7.1	3.5	6.2	100.0

学生たちの家の宗教を調べてみると、キリスト教を信仰している家庭は、全学生の家庭の僅かに6%程度に過ぎない。昔のキリスト教主義学校は殆んどがクリスチャン・ホームの子弟ばかりであったのに比較して、現在のキリスト教主義大学では、その学生が殆んどキリスト教とは無関係な家庭で育っていることが解った。特に東北の宮城学院では2.3%の学生だけがクリスチャン・ホームで育った子女であった。また自分の家の宗教が何であるかを明確に知らない

学生が多いことをみても、家庭における学生の生活歴には宗教が結びついていないことを物語っている。自分の家の宗教は仏教であることを知っている程度で、それが何宗であるかという宗派までは承知していない。いわんやその教義などは特別の学生でない限り知らないのが普通である。広島女学院の場合にはその家庭が真宗である比率が特に高く、無宗教の家庭は少ないが目立っている。

学生がキリスト教を信ずるようになり、いざ受洗せんとするとき、その家庭が法華宗や新興宗教を特に積極的に信じている場合には他の宗教の信者である場合に較べると、受洗に対してより大きな抵抗を感じているようである。従って家族員特に父母、祖父母などの反対にあって受洗していない学生やその兄弟姉妹がかなり存在するようである。

F 8 表に示す如く、家庭の宗教はキリスト教でなくても、その家族員のなかにキリスト教を信じている者はかなり多く、求道中の者をも含めると延にして全学生の 41.7% に相当する学生は自分の家族員に誰かがキリスト教的生活をしている肉親をもっていることになる。学生自身がキリスト教徒である比率は F 8—5 表に示す如く、求道者を含めて 27.2% であるが、家庭にキリスト教的な親兄弟のいる学生は 41.7% に及んでいる。

F 7 家庭の宗教

家庭の宗教	キリスト教 0	神道 1	真宗 2	浄土宗 3	禅宗 4	法華宗 5	真言宗 6	天台宗 7	仏教(宗派不明) ×	その他の宗教 8	無宗教 9	NA	計(実数)
宮城	2.3	1.5	2.8	7.9	14.0	1.8	2.5	0.5	39.1	0.5	11.7	15.5	394
広島	6.3	2.5	65.8		2.5	1.3	2.5	2.5	8.9		1.3	6.3	79
東京	7.8	3.2	20.3	6.4	10.8	4.1	7.6	2.6	17.7	0.6	12.8	6.1	344
神戸	7.3	2.0	22.1	10.3	11.1	5.9	10.6	1.5	11.3	1.3	8.9	7.7	710
計	6.1	2.2	19.0	8.3	11.3	4.2	7.4	1.6	19.8	0.9	10.1	9.3	1527

F 8 家族員の信仰別

家族員の 信仰別	受洗者 1	求道者 2	無関心 3	批判的 4	延家族	(家族数)
宮城	11.4	20.6	47.7	11.2	358	394
広島	6.3	24.1	63.3	5.1	78	79
東京	17.4	21.8	63.1	16.0	407	344
神戸	25.3	24.1	66.9	19.9	967	710
%	19.0	22.7	60.9	16.0	1810	1527

(註) 受洗者、求道者、無関心、批判的を合計しても100%に満たないのはNAがあるからで、またこれらの合計が100%を越えるのは家族員間に異なる解答があるためである。

F 8-1 家族員のキリスト教信仰者数

受洗者数	1人	2人	3人	4人	5人以上	計	家族数
宮城学院	25	12	6	1	1	45	394
広島女学院		1	1	2	1	5	79
東京女子大	28	13	8	7	4	60	344
神戸女学院	100	47	16	12	5	180	710
一年生	30	20	7	4	3	64	432
二年生	52	26	11	5	4	98	557
三年生	49	18	8	5	1	81	311
四年生	22	9	5	8	3	47	227
計	153	73	31	22	11	290	1527
%	10.0	4.8	2.0	1.4	0.7	19.0	100.0

F 8-2 家族員のキリスト教求道者数

求道者数	1人	2人	3人	4人	5人以上	計	家族数
宮城学院	47	25	7	2		81	394
広島女学院	14	4	1			19	79
東京女子大	52	19	2	1	1	75	344
神戸女学院	135	27	7	2		171	710
一年生	98	22	6	3	1	130	432
二年生	76	33	6	1		116	557
三年生	50	13	3	1		67	311
四年生	24	7	2			33	227
計	248	75	17	5	1	346	1527
%	16.2	4.9	1.1	0.3	0.1	22.7	100.0

F 8-3 家族員のキリスト教無関心者数

無関心者数	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人以上	計	家族数
宮城学院	18	23	34	42	38	30	3		188	394
広島女学院	5	4	10	10	17	4			50	79
東京女子大	11	23	36	53	42	43	7	2	217	344
神戸女学院	29	64	116	105	99	49	13		475	710
一年生	17	31	60	69	77	39	9	1	303	432
二年年生	23	44	61	76	71	45	12		332	557
三三三三	13	26	45	42	26	22	1		175	311
四年年生	10	13	30	23	22	20	1	1	120	227
計	63	114	196	210	196	126	23	2	930	1527
%	4.1	7.5	12.8	13.8	12.8	8.3	1.5	0.1	60.9	100.0

F 8-4 家族員のキリスト教批判者数

批判的な者の数	1人	2人	3人	4人	5人以上	計	家族数
宮城学院	32	9	3			44	394
広島女学院	4					4	79
東京女子大	32	18	4		1	55	344
神戸女学院	97	32	8	2	2	141	710
一年生	38	18	4		1	61	432
二年年生	67	25	7			100	557
三三三三	40	7	3	1		51	311
四年年生	20	9	1	1	2	32	227
計	165	59	15	2	3	244	1527
%	10.8	3.9	1.0	0.1	0.2	16.0	100.0

F 8-5 本人のキリスト教信仰

本人の信仰別	受洗者 1	求道者 2	無関心 3	批判的 4	NA	計
宮城	7.1	15.0	23.9	5.1	49.0	394
広島	5.1	17.7	35.4	3.8	38.0	79
東京	7.8	14.5	34.3	7.0	36.3	344
神戸	15.6	17.3	33.7	6.8	26.6	710
一年生	5.8	24.1	39.1	6.9	24.1	432
二年年生	11.0	14.9	30.5	6.1	37.5	557
三三三三	15.8	13.8	27.0	6.4	37.0	311
四年年生	15.4	7.0	24.7	4.8	48.0	227
計	11.1	16.1	31.4	6.2	35.2	1527

(註) 受洗者比率は在学年数と共に逡増している

次に保護者の職業を調べてみると、F 4 表に示す如く、最も大きい職業比率は、会社や団体の職員や公務員で全体の23.7%を占め、次に自営業が多く、全体の16.5%を占めている。保護者が会社重役である比率は13.5%で、保護者が高級管理職ともいえる部長、支店長などをしている者が10.9%である。医師や弁護士は11.0%、宗教家や教育家は全体の10.0%である。保護者が会社重役である比率は宮城学院では3.3%、広島女学院では5.1%、東京女子大学では15.4%、神戸では19.2%であって、神戸女学院と東京女子大学が他の二大学の場合より高い比率を示している。また保護者が高級管理職に従事している比率も同様に神戸女学院の場合には特に高く、全体の16.6%及んでおり、東京女子大学の8.7%、広島女学院の2.5%、宮城学院の4.1%に較べるとかなり高率を示している。このことからみても神戸女学院の学生の家庭がかなり特色ある社会階層によって形成されていることがうなずける。F 5 表はその保護者の社会階層を示したものであり、全体の一割が社会のトップ・レベルに所属する階層であるが、わけても神戸女学院と東京女子大学の父兄は特にその占める比率も高いことを示している。

また家庭における文化的な生活水準の高さを測定する方便としてF 6 表に示すような質問をした処、各項目のいずれかを三点以上所有している家庭は18.7%に及んでいるが、各大学によってその差違が大きく、神戸女学院の場合には22.8%、東京女子大学は19.2%、宮城学院が13.5%、広島女学院が5.1%であった。

F 4 保 護 者 の 職 業

保の 護職 業者業	社重 長役 1	部支 店院 長長 2	会公 社務 員員 3	宗教 教育 家 4	自医 由護 業師 士 5	個の 人従 企事 業者 6	自郵 管便 業局 主長 7	農水 林産 業業 業 8	無 職 9	不 明 0	計 (実数)
宮 城	3.3	4.1	27.9	13.0	8.1	0.8	21.8	10.4	3.0	7.6	394
広 島	5.1	2.5	27.8	8.8	5.1		30.4	7.6	5.1	7.6	79
東 京	15.4	8.7	27.6	14.8	13.4		11.6	0.9	4.7	2.9	344
神 戸	19.2	16.6	19.0	6.1	12.1	1.4	14.4	0.4	3.1	7.7	710
計	206	166	362	152	168	13	252	53	54	101	1527
%	13.5	10.9	23.7	10.0	11.0	0.9	16.5	3.5	3.5	6.6	100.0

(%で示す)

F5 あなたの保護者が次の項目に該当するときにはその番号に○印をつけて下さい

- 1) ロータリークラブまたはライオンズクラブの会員、学術会議員
- 2) 労働組合員になれない管理職（部長以上）または支配人、自営業主
- 3) 労働組合員である俸給生活者（課長以下）
- 4) 上のいずれにも該当しない者

階 層	1	2	3	4	NA	計 (実数)
宮 城	6.4	39.4	12.2	31.7	10.3	394
広 島	2.5	43.0	16.5	35.5	2.5	79
東 京	11.6	47.7	18.3	20.4	2.0	344
神 戸	12.0	58.0	9.8	15.7	4.5	710
計	10.0	50.0	12.7	21.9	5.4	1527

F6 あなたの保護者の家庭に下記に示すものがあれば○印で囲んで下さい

- イ) 冷温房設備（クーラー・スチーム）——但し扇風器、電熱器、ガストーブ等以外のもの
- ロ) 自家用乗用車——荷物兼用四輪車及び自転車は除く
- ハ) 女中、お手伝いさん等2人以上——病人看護の家政婦は除く
- ニ) 避暑地に別荘——夏冬臨時に借用する場合は除く
- ホ) 電話——但し営業用の場合は△印をつける
- ヘ) 電気冷蔵庫——営業用は除く

所 有 量	0	1	2	3	4	5	6	計
宮 城	37.8	27.2	21.6	10.4	2.0	0.8	0.3	394
広 島	24.1	27.8	43.0	3.8			1.3	79
東 京	12.2	22.4	46.2	13.7	3.2	2.0	0.3	344
神 戸	3.8	15.5	57.9	16.6	3.8	1.4	1.0	710
計	15.5	20.7	45.1	13.7	3.0	1.3	0.7	1527

キリスト教主義大学に進学する女子学生は公立大学に較べるとキリスト教主義高校からの進学者比率も高いようであるが、公立高校からの進学者も55%に及んでいる。殊に東京女子大学では公立高校の出身者が74%にも達している。



神戸女学院の場合には高校が併設されているが、それでも47%は公立高校の出身者であり、宮城学院も59%が公立校の出身である。広島女学院のみが公立高校の出身者が僅か14%に過ぎなかった。（悉皆調査でないから標本誤差が含まれている）

F 9 あなたの出身高校は次のどれに該当しますか、○印をつけて下さい。

- (1) 公立、国立
- (2) キリスト教（新教）系私学
- (3) キリスト教（旧教）系私学
- (4) 仏教系私学
- (5) 宗教と関係のない学校法人
- (6) その他

F 9 出 身 学 校

出身学校	1	2	3	4	5	6	計
宮城学院	232	123	18	1	17	3	394
広島女学院	11	54	1	1	10	2	79
東京女子大	263	30	16		29	6	344
神戸女学院	334	304	15	2	48	7	710
一 年 生	232	164	9		22	5	432
二 年 生	319	168	20	3	38	9	557
三 年 生	150	122	11	1	25	2	311
四 年 生	139	57	10		19	2	227
計	840	511	50	4	104	18	1527
%	55.0	33.5	3.3	0.3	6.8	1.2	100.0

D 1 若い世代を代表する学生たちがどのような類型の人物を崇拜しているかは、誠に興味深い事柄である。彼女等が抱いている理想の人間像は、常に彼女等が所属している歴史的現実の社会を反映している。戦時中はヒトラー、ムッソリーニ、東条英機などが崇拜する人物として若い世代の人達によって指摘されたことも少なくなかったし、また資本主義の矛盾が大きく露呈して社会悪や社会病理現象が著しく現われる不況期には、レーニン、スターリン、マルクスなどの社会主義者が多く崇拜されるようになってくる。戦後における日本の社会のように平和が強く希求され、民主主義が強調される時代にあっては、若い世

代の人達が崇拜する人間像のうちには平和主義者や民主主義者が多く指摘されるのも当然である。若い人達によって崇拜されている人物の類型は常にその社会の時代的性格によって著しく色彩られるが、彼女等の所属する社会集団の特性によっても影響される場合も少なくない。キリスト教主義大学の女子学生が、キリスト、聖母マリア、内村鑑三、賀川豊彦などキリスト教の代表的人物を指摘するのも当然であり、またキューリー夫人、ルーズベルト夫人、与謝野晶子、沢田美喜、母親など婦人を崇拜人物として挙げるのも彼女たちが同性であるという属性のしからしむる処である。この調査において、彼女たちが民主主義、平和主義、社会主義、実存主義などの思想の代表者やその現実的実践者を崇拜人物として挙げているのも時代のもつ社会的性格が反映しているとみることができるのであるが、彼女たちが所属している大学の諸属性であるキリスト教や専門学科との関聯において崇拜する人物が選択されてゆくのも当然の姿であるといわねばならない。調査の対象となった女子学生の38.6%の者が崇拜する人物を指摘しているが、いまその典型的な人間像を挙げると次のようなものであった。哲学、音楽、文芸の面で秀でて人物（アリストテレス、ソレアン、ベートーベン、シューマン、モーツァルト、カミュ、ロマン・ローラン、夏目漱石、宮沢賢二、亀井勝一郎など）や宗教人（親鸞上人、キリスト、聖母マリア、アウグスチヌス、釈迦など）や平和主義者（ガンジー、ネール、トルストイなど）や民主主義者（リンカーン、ルーズベルト夫人、ケネディ夫人、末川博士など）というように、一般に指摘される人名や傾向を示しており、虚無主義者や無政府主義者などの名前は現われなかったし、独裁者の名や全体主義者の名も見受けられなかった。

D 1 あなたは崇拜する人物をおもちですか。該当する□枠内に○印をつけて下さい。崇拜する人物がある場合にはその名前を記入して下さい。

- |  |                     |
|--|---------------------|
|  | 1) 崇拜する人物あり。(その名前 ) |
|  | 2) 崇拜する人物なし。        |

崇拜人物	有	無	無解答	計
宮城学院	41.6	40.9	17.5	100.0
広島女学院	24.1	62.0	13.9	100.0
東京女子大	39.8	46.8	13.4	100.0
神戸女学院	38.0	50.5	11.4	100.0
計	38.6	47.8	13.6	100.0

崇拜人物	有	無	無解答	計
一年生	36.3	50.7	13.0	100.0
二年生	40.8	46.5	12.7	100.0
三年生	39.2	47.3	13.5	100.0
四年生	37.0	46.3	16.7	100.0
計	38.6	47.8	13.6	100.0

D2 人間の幸福が何によって齎らされるかという幸福観について調べてみたところ、全学生の37.7%が自己の能力と努力によって幸福が齎らされると考えており、22.9%のものは幸福は生れながらの運命によって宿命的に決まっていると考えている。キリスト教の思想に連がる幸福観を抱いている学生は、キリスト教主義大学に学んでいても僅かに10.7%に過ぎない。人生における偶然的な諸条件によって幸福が決定づけられるという学生が15.6%であり、唯物論的幸福観の持主や幸福など存在しないという悲観論者は極く僅かであった。幸福というものは「能力によって齎らされるもの」なのか、「運命的なものによって決定づけられるもの」なのか、さもなければ「偶然的なものに左右されるもの」なのか、あるいはまた「神の摂理によるもの」なのかという彼女たちの幸福観は、キリスト教主義大学の女子学生にあっても能力、運命、偶然、摂理という順位で支持されている処に、キリスト教が学生たちに浸透している浅さが反省させられるのではないか。勿論これらの幸福観に対する支持率には若干学校差が現われているが、一般にキリスト教主義大学において学ぶ学生であっても、その学生生活の年数が長いからといって必ずしもキリスト教主義的幸福観

が顕著に増大してゆくという結果は残念ながら認められなかった。

D 2 人間の幸福についてあなたはどのように考えておられますか。

次に掲げるもののうちからあなたの考えに最も近いものを一つ選んで下さい。

- 1) 人間の幸福はその人の能力と努力によって齎されるものであると思う。
- 2) 人間の幸福はその人の能力というよりは、寧ろ持って生れた運命によって左右されているように思う。
- 3) 人間の幸福は神の経綸と摂理によって導かれるものである。
- 4) 人間の幸福は偶然的な人生の諸条件によって決まるものと思う。
- 5) 人間の幸福は不自由なく楽しく愉快に暮せる物的条件に依存する。
- 6) 人間の幸福などおおよそ有りえない。

幸福 感	1	2	3	4	5	6	NA	計
宮 城 学 院	41.4	24.4	5.8	18.0	1.8	0.5	8.1	100.0
広 島 女 学 院	35.4	30.4	8.9	12.7		3.8	8.9	100.0
東 京 女 子 大	40.1	20.1	10.2	15.1	2.0	4.1	8.4	100.0
神 戸 女 学 院	34.8	22.5	13.9	14.8	2.0	2.7	9.3	100.0
計	37.7	22.9	10.7	15.6	1.8	2.5	8.8	100.0

幸福 感	1	2	3	4	5	6	NA	計
一 年 生	37.7	24.1	11.8	14.1	2.3	3.2	6.7	100.0
二 年 生	28.2	26.6	8.6	17.1	0.9	1.6	7.0	100.0
三 年 生	35.4	18.3	14.8	14.8	3.5	3.2	10.0	100.0
四 年 生	39.6	17.6	8.4	15.9	0.9	2.2	15.4	100.0
計	37.7	22.9	10.7	15.6	1.8	2.5	8.8	100.0

D 3 キリスト教主義大学で学ぶ女子学生が「神の祝福や仏の加護」を受けているという人生観をどれほど抱いているかを調べてみたところ、宮城学院では39.5%、広島女学院では60.8%、東京女子大学では40.7%、神戸女学院では51.4%というように全学生の46.5%が「自分は神から祝福されている」と感じ

ている。従って宗教によって支えられている人生観を抱えている学生の比率には、極めて顕著な学校差が見受けられるが、次に示す表によっても解るように学生生活の長さには、キリスト教的人生観は直接現われていないようである。即ち一年生では47.3%、二年生でも48.1%、三年生でも46.0%で四年生だけが41.9%と少し比率が低下しているが、全体として46.5%の学生が「神から祝福されている」と感じている。このことはキリスト教主義大学における学生生活の長さが必ずしもキリスト教的な祝福観に影響しているとはいえないことを物語っているようである。

D 3. あなたは神や仏から祝福または加護を受けていると信じていますか。または神や仏からかえりみられないでいると考えますか。□の中に○印をつけて下さい。

- 1) 自分は神や仏から祝福または加護されている人間であると信じている。
- 2) 自分は神や仏から祝福または加護されている人間であるような気がする。
- 3) 自分は神や仏から祝福も加護も受けていないが捨てられてもいない人間だと思う。
- 4) 自分はむしろ神や仏からみずてられているのではないかと思うこともある。
- 5) 自分は神や仏からみずてられているに違いないと思うことがよくある。
- 6) そんなこと考えたことがない。

神仏の加護	1	2	3	4	5	6	NA	計
宮城学院	12.3	27.2	22.6	3.8	1.0	26.4	6.6	100.0
広島女学院	19.0	41.8	11.4	1.3		20.3	6.3	100.0
東京女子大	11.0	29.7	20.1	1.5	0.6	33.1	4.1	100.0
神戸女学院	19.3	32.1	15.5	2.3	0.3	25.1	5.5	100.0
計	15.7	30.8	18.1	2.4	0.5	27.0	5.5	100.0

神仏の加護	※1	※2	3	※4	5	6	NA	計
一年生	13.3	34.0	15.3	3.0	0.5	30.3	3.5	100.0
二年生	16.5	31.6	20.1	2.5	0.4	25.0	3.9	100.0
三年生	18.0	28.0	18.0	1.9	1.3	25.4	7.4	100.0
四年生	14.5	26.4	18.9	1.8		27.8	10.6	100.0
計	15.7	30.8	18.1	2.4	0.5	27.0	5.5	100.0

※ 遞減を示す

D4 大きな不幸に遭遇した場合、どんな気持ちになるかという質問に対する学生たちの自己評価を調べてみると、失望型が9.5%、発憤型が40.2%、希望型が35.0%、感謝型が6.4%、現実型が2.1%となっているが、この分布比率は各大学によって若干異っている。またキリスト教主義大学で学ぶ学生生活が長くなるにつれて、希望型と感謝型の比率がかえって減少してゆくという予想外の結果が現われた。即ち大きな不幸に見舞われた場合に「必ずまた倅せがやってくると信じて元気を出す」という人達の比率は、一年生で38.4%、二年生で36.6%、三年生で32.2%、四年生で28.6%と次第に減少しているし、また「この位の不幸ですんで良かったと神仏に感謝する」気持ちを抱くという比率も一年生では7.4%、二年生では8.3%、三年生では4.8%、四年生では1.8%と遞減している。D4表は大学別、学年別に集計した比率である。

D4 あなたは結婚して大きな不幸に見舞われるようなことがある場合、たとえば交通事故で夫が片手切断、子供が失明したりすればそのときにはあなたならばどんな気持ちになると思いますか。

- 1) 人生に生きる望みを失うので自殺したい気持ちになる。
- 2) これは試練であるから、気をしっかり持たなければいけないと発憤する。
- 3) 必ず倅せがまたやってくると信じて元気を出す。
- 4) この位の不幸ですんでよかったと感謝する。
- 5) 今後の生活が保証できるほどの慰謝料を請求する。

不幸に遭遇	1	2	3	4	5	NA	計
宮城学院	8.4	39.3	35.8	8.1	1.8	6.6	100.0
広島女学院	8.9	32.9	44.3	8.9	1.3	3.8	100.0
東京女子大	7.8	43.3	32.0	5.5	3.5	7.8	100.0
神戸女学院	11.0	40.1	35.1	5.5	1.7	6.8	100.0
計	9.5	40.2	35.0	6.4	2.1	6.8	100.0

不幸に遭遇	1	2	※ 3	※ 4	5	NA	計
一年生	9.3	36.8	38.4	7.4	2.8	5.3	100.0
二年生	11.8	37.0	36.6	8.3	1.3	5.0	100.0
三年生	7.1	44.7	32.2	4.8	1.6	9.6	100.0
四年生	7.5	24.5	28.6	1.8	3.5	10.1	100.0
計	9.5	40.2	35.0	6.4	2.1	6.8	100.0

D5 最近わが国においても近代家族の形態である核家族が次第に増大し、夫婦と未成年の子女のみによって形成される家族形態が一般化してきたので、若い世代の人達が結婚して新世帯をもつ場合においても、従来のように親兄弟と同居して、その家庭の家風を学ぶという慣習は次第に影をひそめつつある。そこでキリスト教主義大学で学ぶ女子学生たちに親兄弟との同居生活に対する希望や別居感情を尋ねてみたところ、近くで別居生活を希望する者が圧倒的に多く、全体の78.5%を占めていた。「親兄弟と同居したいもの」「近くで別居したいもの」「遠く離れて別居したいもの」に区分して学生の希望を調べてみたところ、調査結果には文化的な地域性格が反映していると思われる学校差が伺われ、封建的な生活慣習が比較的多く残存している東北の宮城学院では、かえって親から遠く離れて別居したいという希望比率が高いという結果が現われている。しかしキリスト教主義大学での学生生活の長さには全く関係なく、「大学生生活を長く送るから親と同居を嫌うようになるのだ」というのは全くの俗説であることが判明した。

D6 に示す如く、親兄弟と遠く離れて暮す場合には寧ろ淋しく感ずる学生が

多く、全体の約三割が大変淋しく感ずると答え、約四割が少し淋しく感ずると答えている。従って全学生の 78.5% のものは近くでの別居を好み、全学生の 71.7% のものは親兄弟と遠く離れて暮すと淋しいと感じている。親兄弟と遠く離れて暮したいと答えている学生の場合でも、全く淋しく感じないという学生は極く僅かで、全体の 3.4% に過ぎない。D5 表は大学別、学年別に示した別居希望状況であり、D6 表は遠離地における肉親との別居感情を示したものである。

D5 あなたは結婚して新世帯をもつ場合には、親や兄弟と近い処で暮したいですか。それとも遠く離れて別居したいですか。

- 1) 親兄弟と同居したい。
- 2) 親兄弟の近い処で別居したい。
- 3) 親兄弟と遠く離れて別居したい。

別居生活	1	2	3	NA	計
宮城学院	3.6	42.9	22.1	6.1	100.0
広島女学院	2.5	77.2	15.2	5.1	100.0
東京女子大	3.5	77.6	13.7	5.2	100.0
神戸女学院	2.7	84.6	9.0	3.7	100.0
計	3.1	78.5	13.8	4.7	100.0

別居生活	1	2	3	NA	計
一年生	4.2	78.2	14.4	3.2	100.0
二年生	2.3	78.3	15.3	4.1	100.0
三年生	2.3	79.4	12.2	6.1	100.0
四年生	4.0	78.0	11.0	7.0	100.0
計	3.1	78.5	13.8	4.7	100.0



D6 あなたは若し仮りに結婚して新世帯をもつ場合に、親兄弟と遠く離れて暮さねばならないとすれば、どんな感情が起りますか。

- |                          |                 |                          |                           |
|--------------------------|-----------------|--------------------------|---------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1)大変淋しく感ずるだろう。  | <input type="checkbox"/> | 4)全然淋しいとは感じないだろう。         |
| <input type="checkbox"/> | 2)少し淋しく感ずるだろう。  | <input type="checkbox"/> | 5)遠く離れてかえってほっとした感じになるだろう。 |
| <input type="checkbox"/> | 3)余り淋しく感じないだろう。 | <input type="checkbox"/> | 6)解らない。                   |

別居感情	1	2	3	4	5	6	NA	計
宮城学院	24.9	41.9	16.8	2.0	0.8	9.4	4.3	100.0
広島女学院	32.9	38.0	12.7	3.8	1.3	8.9	2.5	100.0
東京女子大	28.5	39.8	17.4	4.1	0.9	7.6	1.7	100.0
神戸女学院	36.5	39.6	12.0	2.1	0.7	7.6	1.5	100.0
計	31.5	40.2	14.5	2.6	0.8	8.1	2.4	100.0

別居感情	1	2	3	4	5	6	NA	計
一年生	30.6	39.6	14.6	2.5	0.7	11.3	0.7	100.0
二年生	33.2	39.3	14.0	2.7	0.7	7.9	2.2	100.0
三年生	32.5	38.6	15.8	1.3	1.0	6.8	4.2	100.0
四年生	27.8	45.4	13.7	4.4	0.9	4.4	3.5	100.0
計	31.5	40.2	14.5	2.6	0.8	8.1	2.4	100.0

D7 学生たちが所属する代表的な社会集団として、家庭、学校、国家の三つをとりあげ、これらに対する学生の共属一体感情を調べてみたところ、家族集団に対する共属一体感情は、学校や国家に対する共属一体感情より遙かに強いことを示している。自分の親兄弟という家族集団が他人から批判されたり、罵られたりする場合には、どんな感情を抱くかを調べてみたところ、非常に腹立たしく感ずるものは全体の59.7%、かなり不愉快な気持ちになるものは33.4%であった。これに対して自分の所属する学校が罵られた場合に、非常に腹立たしく感ずるものは27.8%と激減し、かなり不愉快に感ずる程度の感情しか湧かないものが全体の59.8%を占めている。国家に対する共属一体感情の場合にな

ると学校の場合よりも更にその比率が低下し、非常に腹立たしく感ずるものは22.5%、かなり不愉快な気持ちになるものが57.2%となっている。この場合、大学における学生生活が長くなればなるほど、逆に所属集団に対する共属一体感情がかえって逡減してゆくという現象となっているが、これは誠に注目すべき現象であるから、これに対する分析と解釈については慎重にもっと検討して見る必要がある。大学生活の長さが社会集団に対する共属一体感を逡減させているという事実から、直ちに学生の個人主義思想の形成や個の確立過程を論ずることは危険であるとしても、そこには何らかの関聯性が見受けられるようである。

D7 あなたは自分の親兄弟や学校や国が他人から批判されたり罵られたりする場合どんな感情を抱きますか。該当する□枠内に○印をつけて下さい。

親兄弟 学校 国

- 1) 非常に腹立たしく感じるだろう。
- 2) かなり不愉快な感じを抱くだろう。
- 3) 余り気にもならない。
- 4) 解らない。

親兄弟	学校	国
1-1	2-1	3-1
1-2	2-2	3-2
1-3	2-3	3-3
1-4	2-4	3-4

共属感情	1-1	1-2	1-3	1-4	NA	計
宮城学院	53.8	36.0	3.0	1.0	6.1	100.0
広島女学院	75.9	15.2	1.3	3.8	3.8	100.0
東京女子大	54.1	39.5	3.2	1.2	2.0	100.0
神戸女学院	63.8	31.0	2.5	1.1	1.5	100.0
計	59.7	33.4	2.8	1.2	2.9	100.0

共属感情	1-1	1-2	#1-3	1-4	NA	計
一年生	65.7	28.5	2.3	2.3	1.2	100.0
二年生	64.3	30.0	2.2	0.9	2.7	100.0
三年生	49.2	42.1	3.2	0.6	4.8	100.0
四年生	51.1	39.2	4.4	0.9	4.4	100.0
計	59.7	33.4	2.8	1.2	2.9	100.0

# 通増を示す

共属感情	2-1	2-2	2-3	2-4	NA	計
宮城学院	23.3	61.9	5.3	3.0	6.3	100.0
広島女学院	41.8	46.8	2.5	5.1	3.8	100.0
東京女子大	27.6	59.9	9.0	1.5	2.0	100.0
神戸女学院	28.9	65.6	8.3	1.1	1.7	100.0
計	27.8	59.8	7.4	1.9	3.1	100.0

共属感情	*2-1	2-2	#2-3	2-4	NA	計
一年生	37.5	53.2	6.2	2.3	0.7	100.0
二年生	26.6	62.7	5.9	1.6	3.2	100.0
三年生	21.9	62.4	8.4	2.3	5.1	100.0
四年生	20.7	61.7	11.9	1.3	4.4	100.0
計	27.8	59.8	7.4	1.9	3.1	100.0

\* 逦減を示す

# 逦増を示す

共属感情	3-1	3-2	3-3	3-4	NA	計
宮城学院	19.0	54.8	11.9	7.6	6.6	100.0
広島女学院	29.1	54.4	7.6	6.3	2.5	100.0
東京女子大	22.1	58.1	12.8	4.9	2.0	100.0
神戸女学院	23.9	58.3	11.8	3.9	2.0	100.0
計	22.5	57.2	11.9	5.2	3.2	100.0

共属感情	*3-1	3-2	#3-3	3-4	NA	計
一年生	28.9	55.3	9.7	5.1	0.9	100.0
二年生	20.8	59.1	11.1	5.6	3.4	100.0
三年生	20.9	58.5	10.3	5.1	5.1	100.0
四年生	16.7	54.2	19.8	4.8	4.4	100.0
計	22.5	57.2	11.9	5.2	3.2	100.0

\* 逦減を示す

# 逦増を示す

D8 学生たちが家庭において経験している両親の価値観と大学生活の中で感じとる価値体系との間にどれほど一致点や同一性を認めているかを調査したのがD8表である。学生たちは父親のものの見方や感じ方と大学の文化的雰囲気との間に大きなずれがあると感じているかを調べてみたところ、父親の価値体系と大学の価値体系との間のずれを感じている学生は全体の21.8%に過ぎなかった。大学別にみると広島女学院の学生の場合には、他の大学の学生に較べて家庭と大学とのずれを感じている学生の割合は比較的少なく、広島女学院の学生の約四割は寧ろ両者間の一致を認めている。母親の場合は父親の場合よりも一般にずれの比率は小さくなっている。母親の価値観と学校の文化的雰囲気との間にはずれがあると感じている学生は全体で13.4%に過ぎず、広島女学院に至っては僅かに6.3%の学生しかずれを感じておらず51.9%の学生は寧ろ一致していると感じている。

このことは学生たちの家庭における両親の躰の面における態度にも反映しており、D9表に示す如く、「自分の権威に服従させるように子供に要求する」権威型の躰や「子供の立場を理解せずに小言ばかりいう」独善型の躰をする父親を持っていると感じている学生は、広島女学院の場合には他の大学の学生の割合よりも比較的その比率が高いことによっても伺われる。一般にキリスト教主義の女子大学では共学の場合よりも躰の点では厳格であるようだが、大学でやかましく躰られても、それ以上にやかましく干渉される家庭で暮している学生の場合には、家庭と学校との間に寧ろ共通の一致点を感じているのではなからうか。いま父母の態度の典型的な類型を比較してみると次の表に示す結果が現われた。

	権威・小言・抑圧型	世話・保護型	期待型	自由型	放任・盲目型
父親	11.6%	5.0%	6.8%	40.0%	19.0%
母親	7.4%	12.2%	11.1%	44.0%	13.3%

すなわち一般的に言うならば権威型、小言型、抑圧型や放任型、盲目型は父親のほうが母親より多く、世話型、保護型、期待型や自由型は母親のほうが父

親より多い結果を示しており、世間一般の傾向とよく一致している。

D 8 あなたの家庭の文化的社会的な雰囲気や物の見方感じ方などはこの大学の一般的な雰囲気や見方、感じ方といくらかずれがあると思いますか。あるいは一致していると思いますか。

父の場合 母の場合

- 1) 非常によく一致している。
- 2) かなり一致している。
- 3) 少し一致している面もある。
- 4) 一致しているともいえないが、ずれがあるというほどでもない。
- 5) 少しずれがあるようだ。
- 6) かなりずれている。
- 7) 非常にずれている。
- 8) 解らない。

1-1	2-1
1-2	2-2
1-3	2-3
1-4	2-4

1-5	2-5
1-6	2-6
1-7	2-7
1-8	2-8

価値観	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	NA	計
宮城学院	1.0	11.9	15.5	29.2	11.4	4.6	1.3	6.9	18.3	100.0
広島女学院	3.8	17.7	17.7	25.3	3.8	2.5	1.3	11.4	16.5	100.0
東京女子大	2.6	23.5	9.0	25.6	14.8	6.4	3.5	6.4	8.1	100.0
神戸女学院	2.4	16.8	12.7	26.6	15.3	7.0	2.3	7.2	9.7	100.0
計	2.2	17.1	12.8	27.0	13.6	6.0	2.2	7.1	11.9	100.0

価値観	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	NA	計
一年生	2.1	19.4	12.3	25.7	13.2	5.6	1.6	10.6	9.5	100.0
二年生	1.4	15.4	14.2	28.5	12.4	6.3	1.6	7.9	12.2	100.0
三年生	3.2	14.5	12.5	26.0	15.1	7.1	3.2	3.9	14.5	100.0
四年生	2.6	20.3	11.0	26.9	15.4	4.8	3.5	3.1	34.4	100.0
計	2.2	17.1	12.8	27.0	13.6	6.0	2.2	7.1	11.9	100.0

価値観	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	NA	計
宮城学院	2.8	16.0	15.0	32.7	12.2	3.6	1.0	6.6	10.2	100.0
広島女学院	6.3	22.8	22.8	25.3	2.5	2.5	1.3	7.6	8.9	100.0
東京女子大	4.1	27.3	11.0	27.6	14.5	3.5	2.3	5.5	4.1	100.0
神戸女学院	3.8	22.8	15.5	26.5	15.7	4.5	1.5	5.5	4.1	100.0
計	3.7	22.1	14.7	28.3	13.9	3.9	1.6	5.9	5.9	100.0

価値観	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	NA	計
一年生	3.9	24.3	18.1	24.8	13.2	2.8	0.7	9.0	3.2	100.0
二年生	3.6	21.9	14.2	30.7	13.1	4.3	1.1	5.7	5.4	100.0
三年生	3.5	19.6	14.5	28.3	14.1	4.5	2.6	3.5	9.3	100.0
四年生	4.0	21.6	10.1	29.1	16.7	4.4	3.1	3.5	7.5	100.0
計	3.7	22.1	14.7	28.3	13.9	3.9	1.6	5.9	5.9	100.0

D9 あなたに対する父母の躾の態度は次に掲げる典型的な類型のうちでどの型が最も近いですか。最も近いと思われる態度を一つ選んで○印をつけて下さい。

	父の 態度	母の 態度
1) 自分の権威に服従することを子に要求する。		
2) 子の立場を理解しようとせずいつも小言ばかりを言う。		
3) 子に干渉せず好きなようにさせて放っておく。		
4) いつもとやかく子の世話をやきたがる。		
5) 目に入れてもいたくない位可愛がり子の要求を何でもきく		
6) 子を大事にしすぎ自分に頼らせるように仕向ける。		
7) 融通が利かず禁止ばかりしているんなことを押しつける。		
8) いろいろな点において子に期待をかける。		
9) 責任が伴うような自由を子に与える。		
0) 解らない。		

父の躰	権威型	小言型	放任型	世話型	盲愛型	保護型	抑圧型	期待型	自由型	O & N A	計
宮城学院	6.9	2.0	17.3	3.3	0.8	2.0	1.5	7.1	35.3	23.9	100.0
広島女学院	11.4	5.1	13.9	5.1		3.8		6.3	31.6	22.8	100.0
東京女子大	6.4	1.7	20.1	2.3	0.9	0.9	1.5	7.8	45.9	12.5	100.0
神戸女学院	8.9	2.4	16.6	3.9	2.5	1.3	1.5	6.2	40.7	15.9	100.0
計	7.9	2.3	17.4	3.5	1.6	1.5	1.4	6.8	40.0	17.6	100.0

父の躰	1	2	3	4	5	6	7	8	9	O & N A	計
一年生	7.4	3.5	17.8	3.0	2.1	1.2	0.9	8.3	40.5	15.3	100.0
二年生	8.4	2.0	18.3	3.9	1.1	2.2	2.3	5.7	37.5	18.5	100.0
三年生	8.0	2.6	15.4	3.9	2.3		1.6	6.1	37.9	21.2	100.0
四年生	7.5	0.4	17.2	2.6	0.9	1.3		7.5	48.0	14.5	100.0
計	7.9	2.3	17.4	3.5	1.6	1.5	1.4	6.8	40.0	17.6	100.0

母の躰	1	2	3	4	5	6	7	8	9	O & N A	計
宮城学院	1.3	6.1	10.4	9.6	0.5	2.3	0.8	9.9	42.6	16.5	100.0
広島女学院	5.1	7.6	6.3	12.7				13.9	43.0	11.4	100.0
東京女子大	0.6	3.8	14.0	8.7	1.6	1.7	0.6	11.0	17.1	11.0	100.0
神戸女学院	1.1	5.4	12.8	10.6	1.7	2.1	1.3	11.5	43.2	10.0	100.0
計	1.2	5.3	12.1	10.2	1.2	2.0	0.9	11.1	44.0	12.0	100.0

母の躰	1	2	3	4	5	6	7	8	9	O & N A	計
一年生	1.4	7.2	11.6	8.3	1.6	1.9	1.2	11.3	44.0	11.6	100.0
二年生	0.9	4.8	13.5	11.8	0.9	2.2	0.9	12.2	42.7	10.1	100.0
三年生	2.3	3.5	12.5	10.0	0.6	1.0	0.3	9.6	43.1	17.0	100.0
四年生	0.4	5.3	9.3	9.7	2.2	3.1	1.3	10.1	48.0	10.6	100.0
計	1.2	5.3	12.1	10.2	1.2	2.0	0.9	11.1	44.0	12.0	100.0

D10 家族員のうちで学生の考え方や行動に最も拘束を与える権威者は誰であるかを調べてみると、父親と答えた者が最も多く全体の 37.9% を占めている。次に多いのが母親で全体の28.0%を占めている。東北地方にある宮城学院や中国地方にある広島女学院の学生の場合には祖父母と同居している比率が高いためか、家庭における権威の所有者が祖父母であると答えた比率は東京女子大学や神戸女学院の場合よりも高いが、両親が権威の所有者であると答えた比率には殆んど学校差がみられなかった。D10表は大学別、学年別に示した家庭内における権威の所有者比率である。

D11表は大学進学についての両親の賛否に関する態度を示したものである。子供がキリスト教主義大学へ進学することについて両親は賛成したか否かを調べてみた処、父親の81.8%、母親の89.9%が進学に賛成し、反対の態度を示した比率は父親が3.8%、母親が3.2%に過ぎなかった。学校別に両親の進学賛成比率を調べてみると次の通りであった。

	賛 成 比 率		反 对 比 率	
	父 親	母 親	父 親	母 親
宮 城 学 院	77.4	86.0	3.3	3.3
広 島 女 学 院	75.9	88.6	5.1	6.4
東 京 女 子 大	83.5	91.5	6.1	2.6
神 戸 女 学 院	84.0	91.4	2.9	3.1

一般に女子学生が進学するに当っては、両親ともに賛成している比率が高いが、特に母親の賛成比率は父親のそれより高いようである。

D10 あなたの家族のうちであなたの考え方や行動について最も拘束を与える権威の所有者は誰ですか。

- 1) 祖父            2) 祖母            3) 父            4) 母  
 5) 兄            6) 姉            7) その他        0) 誰もいない



権威者	祖父 1	祖母 2	父 3	母 4	兄 5	姉 6	その他 7	0	NA	計
宮城学院	1.5	4.1	39.3	29.9	3.3	1.3	1.5	15.2	5.8	100.0
広島女学院	3.8	1.3	38.0	26.6		1.3	1.3	26.6	1.3	100.0
東京女子大	0.3	0.6	39.2	27.0	2.6	1.7	0.6	25.0	12.9	100.0
神戸女学院	0.8	1.1	37.5	27.6	2.3	2.0	2.0	22.0	4.8	100.0
計	1.0	1.8	37.9	28.0	2.5	1.7	1.5	21.2	4.5	100.0

権威者	1	2	3	4	5	6	7	0	NA	計
一年生	1.2	2.1	36.3	24.8	1.9	2.5	2.5	25.9	2.8	100.0
二年生	0.9	2.7	39.7	29.3	3.1	2.0	0.9	18.1	3.4	100.0
三年生	0.6	0.6	39.2	29.6	2.9	0.3	1.6	19.3	5.8	100.0
四年生	1.8	0.4	34.4	29.1	1.8	1.3	0.9	22.0	8.4	100.0
計	1.0	1.8	37.9	28.0	2.5	1.7	1.5	21.2	4.5	100.0

D11 あなたの家庭の方はあなたが大学へ進学されることについて積極的でしたか。

□の中に○印を入れて下さい。

- 1) 積極的に賛成した。
- 2) 消極的に賛成した。
- 3) 賛成も反対もしなかった、無関心であった。
- 4) 消極的に反対した。
- 5) 積極的に反対した。
- 0) 解らない。

父 母


父	1	2	3	4	5	O&NA	計
宮城学院	62.2	15.2	5.3	2.5	0.8	14.0	100.0
広島女学院	58.2	17.7	6.3	3.8	1.3	12.7	100.0
東京女子大	66.9	16.6	3.8	4.9	1.2	6.7	100.0
神戸女学院	69.6	14.4	4.1	2.5	0.4	9.0	100.0
計	66.5	15.3	4.5	3.1	0.7	10.0	100.0

父	1	2	3	4	5	O&NA	計
一年生	70.1	11.6	5.8	2.8	0.5	9.3	100.0
二年生	65.0	16.9	4.1	3.2	0.9	9.9	100.0
三年生	63.7	19.0	3.9	2.9	0.3	10.3	100.0
四年生	67.0	13.2	3.5	4.0	1.3	11.0	100.0
計	66.5	15.3	4.5	3.1	0.7	10.0	100.0

母	1	2	3	4	5	O&NA	計
宮城学院	76.1	9.9	3.6	2.3	1.0	7.1	100.0
広島女学院	69.6	19.0		5.1	1.3	5.1	100.0
東京女子大	77.0	14.5	2.9	2.0	0.6	2.9	100.0
神戸女学院	76.3	15.1	2.0	2.5	0.6	3.5	100.0
計	76.1	13.8	2.5	2.5	0.7	4.4	100.0

母	1	2	3	4	5	O&NA	計
宮城学院	78.0	13.9	27.8	1.6	0.5	3.2	100.0
広島女学院	77.0	13.5	2.9	2.5	0.7	3.4	100.0
東京女子大	73.0	13.8	1.9	3.9	1.3	6.1	100.0
神戸女学院	74.0	14.5	1.8	2.2	0.4	6.6	100.0
計	76.1	13.8	2.5	2.5	0.7	4.4	100.0

D12 学生たちが両親に対してどんな態度をとっているかを調べてみると、父親に対して親和的なものは56.3%、母親に対して親和的なものは75.4%で、父親よりも母親に対する方が敬服や親愛の態度を抱いている比率が高い。また両親に対する反発的な態度も父親に対しては26.2%、母親に対しては16.2%というように、女子学生はやはり母親に対するほうが父親に対するより親しみを感じているものが多いようである。

D12 あなたは父母に対してどんな態度をとることが多いですか。最も多くとる態度を一つ選んで○印をつけて下さい。

- 1) 敬服することが多い。
- 2) 親しんでいくことが多い。
- 3) 友達のように話し合うことが多い。
- 4) 避けることが多い。
- 5) 反撥することが多い。
- 6) 批判することが多い。
- 7) 無視することが多い。
- 8) その他(具体的に )
- 0) 解らない。

父に対して	母に対して

父に対して	1	2	3	4	5	6	7	8	O & NA	計
宮城学院	17.0	24.4	11.2	6.9	6.9	12.4	1.8	1.3	18.3	100.0
広島女学院	12.7	29.1	16.5	6.3	5.1	7.6	5.1		17.7	100.0
東京女子大	17.7	23.8	14.0	6.1	6.1	15.1	2.6	2.0	12.5	100.0
神戸女学院	16.3	29.1	13.2	4.5	5.2	11.3	2.7	2.3	15.3	100.0
計	16.6	26.7	13.0	5.6	5.8	12.2	2.6	1.8	15.6	100.0

父に対して	1	2	3	4	5	6	7	8	O & NA	計
一年生	14.6	25.9	11.8	6.5	7.4	13.6	3.0	1.6	15.5	100.0
二年生	21.2	26.2	12.0	5.6	7.2	10.6	1.4	1.4	14.2	100.0
三年生	13.2	30.5	15.1	5.1	2.3	12.9	3.2	1.3	16.4	100.0
四年生	15.1	24.2	15.0	4.4	4.4	12.8	3.5	3.5	18.1	100.0
計	16.6	26.7	13.0	5.6	5.8	12.2	2.6	1.8	15.6	100.0

母に対して	1	2	3	4	5	6	7	8	O & N A	計
宮城学院	5.3	30.7	35.8	1.0	6.6	10.7	0.8	0.5	8.6	100.0
広島女学院	7.6	31.6	38.0	3.8	3.8	7.6	1.3	1.3	5.1	100.0
東京女子大	3.5	34.3	39.2	0.9	4.9	9.3	1.5	1.2	5.2	100.0
神戸女学院	4.9	28.3	43.1	0.8	5.1	7.9	0.7	2.8	6.3	100.0
計	4.8	30.5	40.1	1.0	5.4	8.9	0.9	1.8	6.6	100.0

母に対して	1	2	3	4	5	6	7	8	O & N A	計
一年生	3.5	35.6	37.5	1.4	5.8	7.6	0.7	1.4	6.5	100.0
二年生	5.9	24.1	45.1	0.9	6.1	8.6	1.4	3.2	4.7	100.0
三年生	6.8	32.2	37.9	1.0	3.5	8.4	0.3	0.6	9.3	100.0
四年生	2.2	33.9	35.7	0.9	5.3	12.8	0.9	0.4	7.9	100.0
計	4.8	30.5	40.1	1.0	5.4	8.9	0.9	1.8	6.6	100.0

D13 家庭と社会との文化的雰囲気に関する一致度は、キリスト教主義女子大学に学ぶ学生の家庭では52.8%が一致していると感じており、11.5%のものがずれていると感じているが、次の表に示す如く東北にある宮城学院の学生の場合には、家庭の雰囲気と社会のそれとが一致していると感じている学生の比率は他の大学の学生の場合より少し低いようであるが、またずれがあると感じている学生の比率も低いので地域差を論ずるのは困難である。

	一 致 度	ず れ
宮 城	47.6	8.9
広 島	53.4	15.3
東 京	54.4	14.0
神 戸	54.6	11.6

D13 あなたの家庭の文化的社会的な雰囲気や物の見方、感じ方などは最近における社会の一般的な雰囲気や物の見方、感じ方といくらかずれがあると思いますか。一致していると思いますか。

- |                          |                                 |
|--------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1) 非常によく一致している。                 |
| <input type="checkbox"/> | 2) かなりよく一致している。                 |
| <input type="checkbox"/> | 3) 少し一致している面もある。                |
| <input type="checkbox"/> | 4) 一致しているともいえないがずれているというほどでもない。 |
| <input type="checkbox"/> | 5) 少しずれがあるようだ。                  |
| <input type="checkbox"/> | 6) かなりずれている。                    |
| <input type="checkbox"/> | 7) 非常にずれている。                    |
| <input type="checkbox"/> | 8) 解らない。                        |

雰囲気	1	2	3	4	5	6	7	8	NA	計
宮城学院	3.0	25.1	19.5	30.9	7.6	1.3		5.6	7.1	100.0
広島女学院	7.6	36.7	10.1	20.3	12.7	1.3	1.3	6.3	3.8	100.0
東京女子大	1.5	38.1	14.8	24.4	9.9	3.8	0.3	1.5	5.8	100.0
神戸女学院	2.5	38.0	14.1	22.5	9.9	1.3	0.4	6.2	3.1	100.0
計	2.7	34.6	15.5	25.9	9.4	1.8	0.3	5.2	4.8	100.0

雰囲気	1	2	3	4	5	6	7	8	NA	計
一年生	3.0	35.0	14.6	25.2	8.6	2.5	0.5	5.8	4.9	100.0
二年生	3.2	32.7	16.0	28.5	9.0	1.3	0.2	5.4	3.2	100.0
三年生	1.6	35.4	14.8	24.1	11.3	1.3	0.3	4.5	6.8	100.0
四年生	2.2	37.9	15.4	22.9	9.7	2.6	0.4	3.1	5.7	100.0
計	2.7	34.6	15.5	25.9	9.4	1.8	0.3	5.0	4.8	100.0

D14 学生たちが自分の在学している大学に対して誇りを感じているか、あるいは劣等感を抱いているかについて調べてみたところ、全学生の70.5%が誇りを感じており、劣等感を抱いている学生は僅かに5.1%に過ぎなかった。しかし大学差がかなり見受けられ、誇りを感じている学生の比率は、宮城学院で

は55.6%、広島女学院では83.6%、東京女子大学では78.8%、神戸女学院では73.3%であった。また逆に劣等感を抱いている学生の比率も宮城学院では9.4%、広島女学院では3.8%、東京女子大学では3.2%、神戸女学院では3.6%を示している。従って東北の宮城学院の学生は他の三つのキリスト教主義大学の学生に較べると、大学に対する誇りを感じている学生の比率は比較的的低く、また逆に劣等感を感じている学生の比率はやや高いようである。従って学生に対する大学の学生指導の面より、精神衛生的なカウンセリングが必要ではなからうか。一般に学生たちは学生生活を送っているうちに彼女たちが抱く劣等感の比率も減少してゆき、二年生では6.1%、三年生では4.8%、四年生になると2.2%と次第に通減してゆくが、大学に対する積極的な誇りは必ずしも学年と共に通増するわけではない。

	誇りを感じる学生の比率	劣等感を感じる学生の比率
一 年 生	74.3%	5.3%
二 年 生	68.2%	6.1%
三 年 生	70.7%	4.8%
四 年 生	68.2%	2.2%

D14 あなたは本学の学生であることに誇りを感じますか。

- |                          |                       |
|--------------------------|-----------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1) 非常に誇りを感じる。         |
| <input type="checkbox"/> | 2) かなり誇りを感じる。         |
| <input type="checkbox"/> | 3) すこし誇りを感じる。         |
| <input type="checkbox"/> | 4) 誇りも感じなければ劣等感も感じない。 |
| <input type="checkbox"/> | 5) すこし劣等感を感じる。        |
| <input type="checkbox"/> | 6) かなり劣等感を感じる。        |
| <input type="checkbox"/> | 0) 解らない。              |

学生の誇	1	2	3	4	5	6	O&NA	計
宮城学院	12.2	19.8	23.6	29.2	7.6	1.8	5.8	100.0
広島女学院	24.1	34.2	25.3	11.4	3.8		1.3	100.0
東京女子大	24.1	34.9	19.8	16.0	2.3	0.9	2.0	100.0
神戸女学院	17.5	30.6	25.2	20.6	2.5	1.1	2.5	100.0
計	17.9	29.0	23.6	21.3	3.9	1.2	3.2	100.0

学生の誇	* 1	2	3	4	5	6	O&NA	計
一年生	23.6	30.3	20.4	18.5	3.9	1.4	1.9	100.0
二年生	17.2	25.3	25.7	23.3	4.5	1.6	2.3	100.0
三年生	14.8	30.5	25.4	19.0	4.5	0.3	5.5	100.0
四年生	13.2	33.0	22.0	24.7	1.3	0.9	4.8	100.0
計	17.9	29.0	23.6	21.3	3.9	1.2	3.2	100.0

\* 通減を示す

D15 学生が大学での専攻学科に関する学問的研究に対し、興味や喜びを感じている割合は全学生の40.2%であるが、全く興味を感じていない学生が5.1%いる。しかし学年が進むにつれて学問的興味や喜びを感じる学生数も増加してゆくが、殊に第二学年、第三学年になると急に興味をもつ学生が増加している。

D15 あなたは大学での専攻学科について学問的な研究の興味や喜びや楽しみを感じたことがありますか。

- |                          |                 |
|--------------------------|-----------------|
| <input type="checkbox"/> | 1) よく感ずることがある。  |
| <input type="checkbox"/> | 2) あまり感ずることがない。 |
| <input type="checkbox"/> | 3) 全く感ずることがない。  |

学問的興味	1	2	3	NA	計
宮城学院	42.6	47.2	6.1	4.1	100.0
広島女学院	36.7	49.4	8.9	5.1	100.0
東京女子大	40.4	29.7	2.6	27.3	100.0
神戸女学院	39.0	42.1	5.4	13.5	100.0
計	40.2	41.0	5.1	13.8	100.0

学問的興味	* 1	2	3	NA	計
一年生	21.5	31.9	7.2	39.4	100.0
二年生	44.0	49.4	3.9	2.7	100.0
三年生	50.2	40.2	4.8	4.8	100.0
四年生	52.4	38.8	4.4	4.4	100.0
計	40.2	41.0	5.1	13.8	100.0

\* 通増を示す

D16 学生たちが所属している大学の雰囲気と社会一般の雰囲気との間にずれがあると感じている学生の比率は、全学生の35.2%であるが、大学別にこれをみると宮城学院では16.0%、広島女学院では12.7%、東京女子大学では27.4%、神戸女学院では52.2%の学生が大学の雰囲気と社会のそれとの間のずれを感じている。神戸女学院の学生の場合が他の大学の学生より著しく目立って全学生の過半数が大学の雰囲気と社会のそれとのずれを訴えている点からみて、大学における雰囲気があまりにも世間一般のものと異なっている点を推察することができる。次に学年別にみると一年生では27.3%、二年生では37.5%、三年生では39.2%、四年生では39.2%と次第にずれを感じている学生の比率が通増していることも注目すべき事柄である。大学と社会との間のこのようなずれがキリスト教主義大学における宗教的雰囲気と一般世間における世俗的なものとの単なるずれに終始している場合には、問題の性格は簡単で宗教教育をめざす大学として当然の事柄であるといえるのであるが、現実には必ずしもそれほど単純な性格ではなさそうである。



D16 あなたは本学における文化的社会的な雰囲気や物の見方、感じ方などは最近における社会の一般的な雰囲気や物の見方感じ方といくらかずれがあると思いますか、一致していると思いますか。

- |                          |                                 |
|--------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1) 非常によく一致している。                 |
| <input type="checkbox"/> | 2) かなりよく一致している。                 |
| <input type="checkbox"/> | 3) 少し一致している面もある。                |
| <input type="checkbox"/> | 4) 一致しているともいえないがずれているというほどでもない。 |
| <input type="checkbox"/> | 5) 少しずれがあるようだ。                  |
| <input type="checkbox"/> | 6) かなりずれがあるようだ。                 |
| <input type="checkbox"/> | 7) 非常にずれている。                    |
| <input type="checkbox"/> | 8) 解らない。                        |

雰囲気	1	2	3	4	5	6	7	8	NA	計
宮城学院	1.3	24.1	18.5	21.1	12.7	2.3	1.0	10.9	8.1	100.0
広島女学院	5.1	49.4	8.9	11.4	8.9	3.8		8.9	3.8	100.0
東京女子大	3.2	27.6	12.2	20.3	22.1	4.7	0.6	5.2	4.1	100.0
神戸女学院	0.4	8.9	9.3	19.9	32.2	15.5	4.5	6.1	3.2	100.0
計	1.5	19.1	12.3	19.8	23.7	9.0	2.5	7.3	4.7	100.0

雰囲気	1	2	3	4	5	6	7	8	NA	計
一年生	2.1	21.2	11.1	19.0	19.7	6.0	1.6	11.3	3.0	100.0
二年生	1.8	17.1	13.5	18.9	25.3	8.6	3.6	7.2	4.1	100.0
三年生	1.0	15.4	11.6	19.9	25.4	11.9	1.9	5.1	7.7	100.0
四年生	0.4	15.9	12.8	23.8	25.1	11.9	2.2	2.6	5.3	100.0
計	1.5	19.1	12.3	19.8	23.7	9.0	2.5	7.3	4.7	100.0

D17 日の丸は国家を象徴する国旗であるが、それを掲げる国民にとっては、彼等の国家意識や民族意識が潜在的に伴ってくるので、そこに日の丸に対する国民感情が漂っている。従って国旗が人によって踏みつけられるのを見ると、そこには不快な国民感情が湧いてくるはずである。国家や民族に対して抱

く学生の潜在的な国民感情を測定する物指しとして、日の丸が踏みつけられた場合の不快感を調べてみたところ、キリスト教主義大学に学ぶ学生の25.2%の者が積極的な国民感情を示しており、13.3%の学生は無感覚であることが解った。日の丸に対して無感覚である学生比率は学年の進むにつれて増大している。一般にキリスト教主義大学は国際的な性格が濃厚であるが、国際性が何も愛国心や祖国愛を抹殺さすものではないとすれば、キリスト教主義大学に学ぶから必然的に国家意識や民族感情や愛国心を減減させてゆくという論理は成り立たないはずである。それでは何故に国旗に対する感情が学年と共に稀薄となり、一年生では31.2%の学生が国旗の踏みつけられるのを見て腹立たしく感じているのに、二年生ではその比率が28.5%、三年生では18.7%、四年生では14.1%とその比率が減減してゆくのか。これらの理由については更に検討してみる必要がある。

D17 あなたは道端に落ちている日の丸の旗を誰かが踏みつけて歩くのを見た場合にはどのように感じますか。次に掲げる項目から一つを選んで○印をつけて下さい。

- |                          |                              |
|--------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1) 日の丸を踏みつけた人をなぐりつけたい程腹が立つ。  |
| <input type="checkbox"/> | 2) 日の丸を踏みつけた人に対して少し腹が立つ。     |
| <input type="checkbox"/> | 3) 日の丸を踏みつけた人に対して少し不愉快な感を抱く。 |
| <input type="checkbox"/> | 4) 日の丸を踏みつけた人に対してなんとも感じない。   |
| <input type="checkbox"/> | 0) 解らない。                     |

国旗感情	1	2	3	4	0	NA	計
宮城学院	3.8	20.6	50.5	10.2	9.9	5.1	100.0
広島女学院	10.1	16.5	50.6	10.1	12.7		100.0
東京女子大	3.5	21.2	50.0	17.4	5.5	2.3	100.0
神戸女学院	4.6	21.0	51.7	14.2	6.5	2.0	100.0
計	4.5	20.7	51.0	13.3	7.5	2.8	100.0

国旗感情	1	2	3	* 4	0	NA	計
一年生	4.6	26.6	50.7	8.8	8.1	1.2	100.0
二年生	5.2	23.3	50.1	11.8	7.4	2.2	100.0
三年生	2.6	16.1	50.8	17.7	8.0	4.8	100.0
四年生	4.8	9.3	53.7	22.0	5.7	4.4	100.0
計	4.5	20.7	51.0	13.3	7.5	2.8	100.0

\* 逡増を示す

D18 学生たちの抱いている人生観、社会観、世界観が最もよく活かされる場所は、学校、家庭、地域社会の順であるが、家庭において最もよく自分の生き方を貫くことができると答えている学生の比率は学年の進むにつれて増加している。

D18 あなたは自分の人生観、社会観、世界観などを貫くため、最も多く活動する場所はあなたの場合は次に掲げる社会集団のうちでどの分野だと思いますか。一つ選んで○印をつけて下さい。

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1) 家庭                    |
| <input type="checkbox"/> | 2) 学校                    |
| <input type="checkbox"/> | 3) 近隣                    |
| <input type="checkbox"/> | 4) 職業集団 (団体名を具体的に _____) |
| <input type="checkbox"/> | 5) 地域社会                  |
| <input type="checkbox"/> | 6) 国家                    |
| <input type="checkbox"/> | 7) 国際社会                  |

人生観	1	2	3	4	5	6	7	NA	計
宮城学院	23.6	39.1	1.8	5.6	13.7	1.0	3.0	12.2	100.0
広島女学院	24.1	44.3	1.3	5.1	7.6		6.3	11.4	100.0
東京女子大	25.3	32.3	2.0	11.6	8.1	1.7	8.1	10.8	100.0
神戸女学院	32.8	25.6	1.8	4.4	9.9	3.0	9.4	13.1	100.0
計	28.3	31.6	1.8	6.4	10.3	2.0	7.3	12.2	100.0

人生観*	1	2	3	4	5	6	7	NA	計
一年生	25.9	35.6	2.8	5.8	6.2	2.5	9.3	11.8	100.0
二年生	28.5	35.9	1.1	4.8	12.6	1.3	5.9	9.9	100.0
三年生	29.6	23.5	1.3	7.4	11.9	2.3	9.0	15.1	100.0
四年生	30.4	24.2	2.6	9.7	10.6	2.6	4.8	15.0	100.0
計	28.3	31.6	1.8	6.4	10.3	2.0	7.3	12.2	100.0

D19 キリスト教主義大学に学ぶ女子学生が結婚の相手を選ぶ場合、特に重視されている条件は先ず愛情、つぎに健康、つづいて生活力、人格的信頼、教養の順であるが、キリスト教的信仰を要求する学生は全学生の3.9%に過ぎない。学生生活の長さは心ずしも結婚の相手を選択する条件に大して影響を与えていないようであるが、大学別にみると若干差違があるようだ。いま各大学における学生の五割以上によって指摘されている結婚相手の選択条件を大学別に挙げると次の通りであった。

指摘率	9割以上	8割以上	7割以上	6割以上	5割以上
宮城学院	健康	愛情・生活力	— —	— —	教養
広島女学院	—	愛情 —	生活力・健康	— —	人格的信頼
東京女子大	—	愛情 —	健康・ —	人格的信頼・生活力	教養
神戸女学院	—	愛情・健康	生活力 —	人格的信頼 —	教養

D19 あなたは結婚の相手を選ぶ場合、どんな条件を求めますか。次に掲げるものうちで重要な条件から順に1、2、3、4、5の番号をつけて五つ選んで下さい。

<input type="checkbox"/>	1) 健康	<input type="checkbox"/>	6) 学歴	<input type="checkbox"/>	11) 禁酒禁煙
<input type="checkbox"/>	2) 精神的健康	<input type="checkbox"/>	7) 愛情	<input type="checkbox"/>	12) 容姿 体格
<input type="checkbox"/>	3) 生活力	<input type="checkbox"/>	8) 人格的信頼	<input type="checkbox"/>	13) 家柄 血統
<input type="checkbox"/>	4) 財産	<input type="checkbox"/>	9) キリスト教的信仰	<input type="checkbox"/>	14) 理解
<input type="checkbox"/>	5) 教養	<input type="checkbox"/>	10) 品行方正	<input type="checkbox"/>	15) 別居

結婚条件	1	2	3	5	6	7	8	9	10	12	13	14	その他
宮城学院	90.1	24.9	80.2	59.1	20.6	85.8	48.7	2.3	6.1	9.6	10.9	32.2	7.9
広島女学院	72.2	38.0	74.7	53.2	13.9	81.0	59.5	5.1	16.5	12.7	16.5	27.8	7.6
東京女子大	75.6	38.7	63.1	53.8	23.0	87.5	69.5	5.2	5.8	7.8	5.5	36.3	4.1
神戸女学院	87.2	39.6	71.4	53.8	21.3	87.3	63.4	4.1	3.4	9.4	14.6	20.4	6.5
計	84.6	35.5	72.0	55.2	21.1	86.7	60.8	3.9	5.3	9.3	11.7	27.4	6.4

二位 三位 五位 一位 四位

結婚条件	1	2	3	5	6	7	8	9	*10	*12	13	14	その他
一年生	79.6	42.1	70.1	58.6	17.6	86.8	62.7	3.5	7.9	13.3	10.0	28.7	2.5
二年生	88.3	32.1	76.5	54.9	23.0	86.9	56.2	2.5	5.4	8.6	14.9	27.1	6.3
三年生	89.7	34.1	65.9	57.6	17.4	86.2	61.4	5.8	3.9	8.4	10.3	28.6	8.7
四年生	77.5	33.0	72.7	45.8	28.2	86.3	67.4	5.7	2.2	6.6	9.3	24.2	10.6
計	84.5	35.5	72.0	55.2	21.2	86.7	60.8	3.9	5.3	9.3	11.7	27.4	6.4

\* 通減を示す

D20 伝統的な家風やしきたりを尊重して保存したいと考える学生は全学生の22.2%、自分の考えと相容れないものは捨てるという学生は全学生の55.1%であるが、大学によって若干の差を示している。伝統的な家風の保存を希望する学生は宮城学院では24.6%、広島女学院では27.9%、東京女子大学では18.0%、神戸女学院では22.2%というように、東北や中国にある大学の学生のほうが東京や神戸の学生より家風の保存をより多く希望している。また学年別に見ると在学年数が増加するにつれて、家風の保存を希望する比率も通減してゆくようである。一年生では24.3%、二年生では24.8%、三年生では19.6%、四年生では15.4%と次第に家風を保存したいと希望する学生数も通減しているし、また自分の考えと相容れないものは捨てたいという学生数は在学年数の増加と共に通増を示している。

D21 親を扶養する義務について娘たちの感情を調べてみたところ、親を扶養しようと思わない女子学生は全体の僅かに1.1%で、大部分の者は必要に迫

られると娘であっても親を扶養すると答えている。大学で勉強する年数が多くなるにつれて娘の親に対する扶養観はその義務的な観念が逡減するが、必要に迫られると扶養するという道義観は次第に逡増し、結極全体として親を扶養する意志がある学生は一年生では89.0%、二年生では89.2%、三年生では87.2%、四年生では86.8%というように在学年数とあまり関係がなさそうである。

D20 あなたは先祖から伝わる家風やしきたりはできるだけ尊重して保存したいと思いますか。

- |  |                         |
|--|-------------------------|
|  | 1) 是非保存したい。             |
|  | 2) なるべく保存したい。           |
|  | 3) 保存しようとは思わない。         |
|  | 4) 自分達の考えと相容れないものは捨てたい。 |
|  | 0) そのときにならないと解らない。      |

家 風	1	2	3	4	0	NA	計
宮城学院	2.0	22.6	7.6	47.5	11.9	8.4	100.0
広島女学院	1.3	26.6	3.8	55.7	1.3	11.4	100.0
東京女子大	0.3	17.7	7.3	59.9	12.2	2.6	100.0
神戸女学院	0.7	21.5	7.7	56.9	10.8	2.3	100.0
計	1.0	21.2	7.4	55.1	10.9	4.4	100.0

家 風	1	* 2	3	# 4	0	NA	計
一 年 生	0.7	23.6	6.5	51.9	11.3	6.0	100.0
二 年 生	1.6	23.2	7.5	51.5	12.9	3.2	100.0
三 年 生	0.6	19.0	9.3	59.8	6.4	4.8	100.0
四 年 生	0.4	15.0	6.2	63.4	11.5	3.5	100.0
計	1.0	21.2	7.4	55.1	10.9	4.4	100.0

\* 逡減を示す

# 逡増を示す

D21 あなたは娘としてあなたの親を扶養する義務を負うべきだと思いますか。娘だから親の扶養まで考えなくてもよいと考えますか。（法的規定と無関係に答えて下さい）

- |  |                                 |
|--|---------------------------------|
|  | 1) 当然扶養する義務を負うべきであるし扶養するつもりである。 |
|  | 2) 必要があれば扶養するだろう。               |
|  | 3) 相続するものが扶養すれば良いでしょう。          |
|  | 4) 嫁に行ったら扶養の義務まで負いたくない。         |
|  | 5) そのときにならないと解らぬ。               |

扶養義務	1	2	3	4	5	NA	計
宮城学院	19.5	62.4	0.5	0.3	11.2	6.1	100.0
広島女学院	24.1	60.8	1.3	1.3	11.4	1.3	100.0
東京女子大	18.9	72.7	0.6	0.6	5.2	2.0	100.0
神戸女学院	17.6	71.9	0.6	0.4	7.3	2.1	100.0
計	18.7	69.1	0.6	0.5	8.1	3.1	100.0

扶養義務	* 1	# 2	3	4	5	NA	計
一年生	23.4	63.6	1.2	0.5	9.7	1.4	100.0
二年生	19.4	69.8	0.4	0.4	7.0	3.2	100.0
三年生	15.1	72.0	0.3	0.6	7.1	4.8	100.0
四年生	13.2	73.6	0.4	0.4	8.8	3.5	100.0
計	18.7	69.1	0.6	0.5	8.1	3.1	100.0

\* 通減を示す # 通増を示す

D22 学生生活をより意義あるものにするために、彼女たちがどのような分野において積極的な努力をしているかを調べてみたところ、学生自身が自己の人格形成の面で積極的に努力しているという学生が全体の25.3%で最も多く、次により良い家庭づくりに積極的に努力しているという学生が全体の16.2%となっている。よい職場につくための努力や社会生活における積極的な努力ではいずれも僅かに5%程度であった。しかし人間形成における積極的な努力も学年

が進むにつれて、その比率が逡減し、入学当時の一年生時代には全学生の29.4%が積極的に努力していると答えているにも拘らず、第二学年になると26.0% 第三学年では23.5%、卒業年度の学生では18.1%にまで逡減している。少し努力をしていると答えた学生の比率を加えても人間形成の面は学年が進むにつれて逡減していることは注目すべき現象である。次の表は積極的に努力していると答えた学生の比率と少し努力していると答えた学生の比率を加えた%を示したものである。

	家 庭	職 場	社 会	人間形成	名 声
一 年 生	36.1	21.3	20.3	62.0	3.5
二 年 生	38.3	24.3	23.2	59.2	5.0
三 年 生	35.7	23.1	24.8	50.5	3.2
四 年 生	22.9	21.6	17.1	42.3	2.2
全 学 生	34.8	22.8	21.8	55.8	3.8

D22 あなたは学生生活をより意義あるものにするための抱負をいろいろお持ちでしょうがその実現のためにどんな理想に向って努力を払っていますか。該当する項目のうち最も近いものを選んで□枠内に○印をつけて下さい。

	よい家庭をつくりたい 1	よい職業に従事したい 2	よい社会的活動をしりたい 3	よい人間になりたい 4	名声をあげたい 5
(-) 別にとりあげて言うような働きかけは積極的にはしていない。					
(±) 余り積極的ではないが少しは努力している(具体的に)					
(+) かなり積極的に努力している。(具体的に)					



1 家 庭	積極的に 努力して る (+)	少しは努力 している (±)	努力して いない (-)	NA	計
宮城学院	64 16.2	77 19.5	46 11.7	207 52.3	394 100.0
広島女学院	10 12.7	22 27.8	16 20.3	31 39.2	79 100.0
東京女子大	32 9.3	69 20.1	82 23.8	161 46.8	344 100.0
神戸女学院	84 11.8	174 24.5	140 19.7	312 43.9	710 100.0
計	190 12.4	342 22.4	284 18.6	711 46.6	1527 100.0

1 家 庭	積極的に 努力して る (+)	少しは努力 している (±)	努力して いない (-)	NA	計
一 年 生	56 13.0	100 23.1	110 25.5	166 38.4	432 100.0
二 年 生	80 14.4	133 23.9	84 15.1	260 46.7	557 100.0
三 年 生	36 11.0	75 24.1	57 18.3	143 46.0	311 100.0
四 年 生	18 7.9	34 15.0	33 14.5	142 62.6	227 100.0
計	190 12.4	342 22.4	284 18.6	711 46.6	1527 100.0

2 職 業	積極的に 努力して る(+)	少しは努力 している (±)	努力して いない (-)	NA	計
宮城学院	39 9.9	73 18.5	68 17.3	214 54.3	394 100.0
広島女学院	2 2.5	12 15.2	16 20.3	49 62.0	79 100.0
東京女子大	21 6.1	73 21.2	80 23.3	170 49.4	344 100.0
神戸女学院	24 3.4	104 14.6	186 26.2	396 55.8	710 100.0
計	86 5.6	262 17.2	350 22.9	829 54.3	1527 100.0

2 職業	積極的に 努力して る(+)	少しは努 力してい る(±)	努力して いない (-)	NA	計
一年生	16 3.7	76 17.6	120 27.8	220 50.9	432 100.0
二年生	40 7.2	95 17.1	110 19.7	312 56.0	557 100.0
三年生	16 5.1	56 18.0	86 27.7	153 49.2	311 100.0
四年生	14 6.2	35 15.4	34 15.0	144 63.4	227 100.0
計	86 5.6	262 17.2	350 22.9	829 54.3	1527 100.0

3 社会的活動	積極的に 努力して る(+)	少しは努 力してい る(±)	努力して いない (-)	NA	計
宮城学院	20 5.1	54 13.7	73 18.5	247 62.7	394 100.0
広島女学院	5 6.3	10 12.7	25 31.6	39 49.4	79 100.0
東京女子大	24 7.0	68 19.8	100 29.1	152 44.2	344 100.0
神戸女学院	29 4.1	123 17.3	179 25.2	379 53.4	710 100.0
計	78 5.1	255 16.7	377 24.7	817 53.5	1527 100.0

3 社会的活動	積極的に 努力して る(+)	少しは努 力してい る(±)	努力して いない (-)	NA	計
一年生	20 4.6	68 15.7	136 31.5	208 48.1	432 100.0
二年生	35 6.3	94 16.9	119 21.4	309 55.5	557 100.0
三年生	12 3.9	65 20.9	75 24.1	159 51.2	311 100.0
四年生	11 4.8	28 12.3	47 20.7	141 62.1	227 100.0
計	78 5.1	255 16.7	377 24.7	817 53.5	1527 100.0

4 人間形成	積極的に 努力して る(+)	少しは努 力してい る(±)	努力して いない (-)	NA	計
宮城学院	93 23.6	116 29.4	52 13.2	133 33.8	394 100.0
広島女学院	19 24.1	27 34.2	13 16.5	20 25.3	79 100.0
東京女子大	105 30.5	114 33.1	54 15.7	71 20.6	344 100.0
神戸女学院	169 23.8	208 29.3	90 12.7	243 34.2	710 100.0
計	386 25.3	465 30.5	209 13.7	467 30.6	1527 100.0

4 人間形成	*積極的に 努力して る(+)	少しは努 力してい る(±)	努力して いない (-)	NA	計
一年生	127 29.4	141 32.6	55 12.7	109 25.2	432 100.0
二年生	145 26.0	185 33.2	87 15.6	140 25.1	557 100.0
三年生	73 23.5	84 27.0	41 13.2	113 36.3	311 100.0
四年生	41 18.1	55 24.2	26 11.5	105 46.3	227 100.0
計	386 25.3	465 30.5	209 13.7	467 30.6	1527 100.0

\* 通減を示す

5 名 声	積極的に 努力して る(+)	少しは努 力してい る(±)	努力して いない (-)	NA	計
宮城学院	6 1.5	10 2.5	106 26.9	272 69.0	394 100.0
広島女学院		3 3.8	8 10.1	68 86.1	79 100.0
東京女子大	1 0.3	1 0.3	142 41.3	200 58.1	344 100.0
神戸女学院	4 0.6	33 4.6	224 31.5	449 63.2	710 100.0
計	11 0.7	47 3.1	480 31.4	989 64.8	1527 100.0

5 名 声	積極的に 努力して いる(+)	少しは努 力してい る(±)	効力して いない (-)	NA	計
一 年 生	2 0.5	13 3.0	143 33.1	274 63.4	432 100.0
二 年 生	8 1.4	20 3.6	174 31.2	355 63.7	557 100.0
三 年 生		10 3.2	104 33.4	197 63.3	311 100.0
四 年 生	1 0.4	4 1.8	59 26.0	163 71.8	227 100.0
計	11 0.7	47 3.1	480 31.4	989 64.8	1527 100.0

D23 日常生活における非合理的な習慣を打破して、生活を合理化しようとする生活態度は知識階級や若い世代の人達によって盛んにとり入れられる傾向が強いように世間一般では考えられているが、キリスト教主義大学の女子学生の場合には寧ろ慣習的な生活に従うほうが多いと答えている学生のほうが多く全体の42.6%に及んでいる。

D23 われわれの日常生活においては、慣習的な非合理的な生活と科学的合理的な生活態度とが入り乱れています。あなたの場合には寧ろどちらの態度の方がより多くとり入れられていますか。例えば秋祭に寄附を集めに来たときは氏子や信者でない場合でも近所の人びとが寄附されているならば慣習に従って寄附をしますか。それとも不合理な寄附はしませんか。

- |                          |                    |
|--------------------------|--------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1) 慣習に従う方が多い。      |
| <input type="checkbox"/> | 2) 合理的判断に従う方が多い。   |
| <input type="checkbox"/> | 3) そのときにならないと解らない。 |

生活態度	1	2	3	NA	計
宮城学院	46.2	26.1	19.5	8.1	100.0
広島女学院	51.9	24.1	20.3	3.8	100.0
東京女子大	39.8	34.6	23.3	2.3	100.0
神戸女学院	41.0	29.6	25.9	3.5	100.0
計	42.6	29.5	23.4	4.5	100.0

生活態度	1	2	3	NA	計
一年生	44.2	28.7	24.8	2.3	100.0
二年生	46.5	28.0	21.0	4.5	100.0
三年生	35.4	35.0	24.1	5.5	100.0
四年生	40.1	27.3	25.6	7.0	100.0
計	42.6	29.5	23.4	4.5	100.0

D24 キリスト教主義女子大学の学生が支持している政治的な主義主張を調べてみると民主社会主義的な立場が最も多く、全学生の27.5%を占めている。特に東北の宮城学院は民主社会主義の立場を支持する学生の比率は他の大学の場合よりも高く35.8%に及んでいる。東京女子大学の学生の場合には民主社会主義の立場を支持する学生と修正資本主義を支持する立場とが共に24.4%を示している。大学別にみるならば東京女子大学がやや資本主義的な立場を支持する学生が多く、宮城学院は圧倒的に社会主義的な立場を支持する学生が多く、神戸女学院もやや社会主義的な立場を支持する比率が高いようである。また在学年数が進むにつれて次第に遡増してゆく思想的立場も民主社会主義的立場であって、共産主義を支持する比率は学年と共に減少している。

	資本主義的 立場の側	社会主義的 立場の側
宮城学院	18.5	43.7
広島女学院	25.3	31.7
東京女子大	38.1	37.1
神戸女学院	34.3	35.3

D24 次に掲げる主義主張のうちであなたの支持したい立場に一番近いものを一つだけ選んで□枠内に○をつけて下さい。

	1) 資本主義的な立場
	2) 修正資本主義的な立場
	3) 民主社会主義的な立場
	4) 社会主義的な立場
	5) 共産主義的な立場
	6) なんともいえない。または解らない。

主義主張	1	2	3	4	5	6	NA	計
宮城学院	9.4	9.1	35.8	7.1	0.8	30.5	7.4	100.0
広島女学院	15.2	10.1	22.8	8.9		38.0	5.1	100.0
東京女子大	13.7	24.4	24.4	11.0	1.7	21.5	3.2	100.0
神戸女学院	12.8	21.5	24.9	10.0	0.4	25.6	4.6	100.0
計	12.2	18.4	27.5	9.4	0.8	26.6	5.0	100.0

主義主張	1	2	* 3	4	5	# 6	NA	計
一年生	12.7	19.0	20.8	8.8	0.9	34.3	3.5	100.0
二年生	11.7	18.1	28.2	7.9	0.4	29.4	4.3	100.0
三年生	9.0	18.6	30.9	10.9	0.6	21.9	8.0	100.0
四年生	17.2	17.6	33.9	12.3	1.8	11.5	6.2	100.0
計	12.2	18.4	27.5	9.4	0.8	26.6	5.0	100.0

\* 通増を示す      # 通減を示す

## 〔結論〕

キリスト教主義女子大学学生の生活態度における民主化の度合に関するこの論考の実証的な研究の結果として、次のことが明らかになった。

すなわち女子学生が所属する客観的な諸集団である家庭、学校、地域、従って彼女たちの家庭の職業、経済水準、社会階層、家の宗教、出身学校の区別、現在在学中の大学の位置などを基準にして、学生の生活態度における民主化の度合という社会的態度を測定しても、そこには顕著な関聯性は得られない。寧ろ

彼女たちが主観的に自己を所属させている準拠集団 (reference group) が寧ろ社会的態度の有力にして重要な指数 (index) となっているのではなかろうか。例えば権威の所有者の有無、宗教に対する家族員の態度、集団の文化的雰囲気に対する感じ方などを媒介にして主観的に自己を所属させている準拠集団がどのような性格を帯びているかによって寧ろキリスト教主義大学に学ぶ女子学生の民主的な生活態度を測定することが出来るのではなかろうか。こうした本調査における結論も断定的なものとして決定づけるには、もう少し掘下げた分析が必要であるように思われるが、紙幅の関係上今回の報告はこれに止めることにする。

### (参考文献)

Centers, R.; The Psychology of Social Classes, 1949

# **Research on the Degree of Democratization of Student's Life in Women's Christian College in Japan (III)**

Résumé

Taketoshi Sasabe  
Yasuo Mizoguchi  
Monkichi Namba

We have obtained the following results from our survey :

The index to social attitudes of female students in Christian colleges can be obtained from the influence effected by the character of the referencc groups to which they joined voluntarily than by the membership groups to which they were made to join.

We found that the students were more strongly influenced by the reference groups than by such elements as the family religion, father's occupation, his social status, religious sect of the college, character of their dwelling place, in determining the degree of democratization in the students' attitude towards life.

In this report we also studied the changes in the degree of democratization in the female students by class and discussed concretely the students' evaluation of the difference in ideal and actual norms shown between school and home, home and society, school and society.